

本書の使い方

この本は、肺がん患者さんに適切な治療を受けていただくために、また患者さんと家族の皆様のさまざまな質問、疑問、不安に答えるために企画され、構成されています。この目的のため、一般的な解説書や教科書の構成でなく、質問・疑問を内容別にリストアップし、それに専門医が答える形式をとっています。このような形式をQ&A形式といい、患者さん向けのがんの解説書では欧米でも日本でもこの形式が一般的になりつつあります。現時点での最新かつ根拠のある情報に基づいて、専門医が解説やアドバイスを行うという構成としました。ただ、内容によって、ぜひ受けるべき**標準治療**が確立されている場合と、まだ研究段階で標準治療が確立されていない場合があります。そこで、本書では、それぞれの治療がどの程度推奨されるのかをわかりやすくするため、日本肺癌学会の医師向けのガイドラインをもとに以下のように分類してありますので参考してください。治療の解説の最後に、◎、○、△、×がつけられています。

推奨度◎：国際的な大規模な**比較研究**や、複数の比較研究により、強い根拠をもって治療を受けるよう推奨されるもの。あるいは、研究はないが、現代医学や日本の医療事情に照らして、明らかに行うよう勧められるもの。

推奨度○：大規模な研究ではないが、比較研究がなされ、ある程度の根拠をもって治療を受けるよう推奨されるもの。あるいは、研究データはないが、おむね行うほうがよいと勧められるもの。

推奨度△：小規模な研究や、症例報告の積み重ねのデータしかなく、必ずしも治療を受けることがよいとは断定できないもの。あるいは状況により判断や意見の分かれるもの。

推奨度×：信頼できる研究データがなく、治療を行う根拠がないため推奨できないもの。あるいは、研究データはないが現代医学や日本の医療事情に照らして、行うよう勧められないもの。

なお、医学は常に進歩しており、今後の研究によって評価が変更になることもありますのでご注意ください。本書も数年ごとに改訂版を発行する予定です。

構成について

ご自身が疑問や興味を持っている質問内容を目次から直接さがし、そのページを見ていただくと簡単に回答が得られるように構成されています。質問の内容は系統的に並べられており、時間があれば、はじめから順次読んでいただくことをお勧めします。肺がんと診断されてから、治療方針の決定、治療内容、再発した時、症状を和らげる治療に至るまで時間経過をおって理解できるように解説しています。

本書は、患者さんや家族のためにできるだけわかりやすく解説するよう努めていますが、どうしても平易な言葉に直せない医学用語があります。このような用語は、そのページの欄外に用語解説を追加しました。また、本書の末尾に索引が掲載されていますので、わかりにくい用語があれば索引を検索してみてください。本書の解説で十分理解できない場合は、インターネットで用語を検索していただか、本書を主治医や看護師に見せて教えてもらうのがよいでしょう。

治療法の名称について

同じ治療法であっても、国や地域、病院によって呼び方が異なる場合があります。多くは、英語の治療名が日本に導入される場合に呼び方が変わったり、正式名称が医学専門用語であるゆえにわかりやすい名称にかみ砕いて表現して

用語解説

■ 標準治療

現時点で、治療効果が優れ、しかも副作用も耐えられるものであることが「臨床試験」すでに証明されている治療法。医学の進歩により、逐次新しい治療が導入されているため、現在の標準治療も数年後には標準治療でなくなることもあります。

■ 比較研究

複数の治療法が考えられる時、効果や副作用を調べてどの治療法が優れているかを証明する研究です。第Ⅲ相試験と呼ばれる比較研究では、各々の治療法を公平に評価するため、無作為化割付といって、治療を受ける患者さんが一方に偏らないように治療法が選ばれます。

いる場合です。たとえば、多剤併用化学療法とは、「複数の抗がん剤を組み合わせた治療」を意味しますが、一般には「抗がん剤治療」と表現されます。本書では、できるだけわかりやすく表現するために一般的な用語を用いるように配慮しています。しかし、解説の内容によっては、正式な名称を用いたほうが理解が深まる場合もあります。このような場合は、あえて専門用語を用いていますが、できるだけ用語解説をつけるようにしましたので参考にしてください。

治療薬の名称について

治療薬についても、一般名と商品名があります。一般名は世界共通で用いられる薬の名称で、商品名は各々の製薬会社が販売時につけた名称です。したがって、1つの一般名に対し、複数の商品名が存在することがあります。本書では原則的に一般名を用いるようにしています。ただし、一般名が極端に長く複雑で、商品名が広く用いられている場合は、限定的に商品名を掲載していますのでご理解ください。商品名には名称の後ろに®マークがつけてあります。

個人個人で状況が異なること

人の顔や体つきが人それぞれ異なるように、同じ肺がんであっても、個々に細胞の種類や、分化度、進行度、年齢、臓器機能や元気さの程度が異なります。また、喫煙者は、肺の働きが非喫煙者より劣っていたり、薬剤によっては強い副作用が出る場合もあります。本書では、進行度や肺がんの種類によって推奨される治療を分類して述べていますが、年齢や合併症、体力により、本書で推奨する治療ができない場合があります。主治医は、患者さんの治療に関して年齢や体力などの医学的理由も考慮して治療を選択するはずですでの、本書の推奨する治療通りとならない場合があります。その時は、主治医に相談したり、セカンドオピニオン（36ページ参照）を活用してください。